

## 登場人物にふさわしい声があることを知ろう

### 構成

1. 概要
2. 単元計画
3. 本時のための準備
4. 本時の流れ
5. メディアリテラシー育成のためのポイント
6. 授業レポート
7. 先生の一言 ～授業を終えて～
8. 私もやってみました！
9. 監修者の一言

### 1. 概要

実施校	東京学芸大学附属小金井小学校
実践者	大塚健太郎 教諭
教科	小学1年生 国語科
単元	「ともだちのこころを読みあじわおう」
メディアリテラシーに関わる部分の授業時間数	45分

### 2. 単元計画

第1次：作品と出会い、学習計画を立てる	
1 時間目	『お手がみ』の読み聞かせを聞き、自分でも読み、感想をもつ
2 時間目	自分の好きな場面や人物を紹介し合い、ペープサートと出会う
第2次：人物の気持ちや様子を想像しながら『お手がみ』をペープサートで演じる	
3 時間目	手紙をもらえないがまくんの落胆と手紙を書いて喜ばせてあげようとするかえるくんの優しさを思いうかべ、ペープサートで演じる ※ペープサートを作って演じると、普通の学習と違ってどんな点がよかったか。
4 時間目	沈んでいるがまくんと励まそうとするかえるくんの様子や気持ちを思いうかべ、ペープサートで演じる ※2人の気持ちをペープサートで演じるときに、どんな工夫をしたか。
5 時間目	手紙を書いたことを伝えたり知ったりした2人の気持ちの変化を思いうかべ、ペープサートで演じる ※VTR（ビデオ）を見たことで、ペープサートで演じるときにどんなことに気がつけたか。
第3次：学習のまとめをする	
6 時間目	大切な友達であるかえるくんがまくんになったつもりでお手紙の返事を書く

本時

### 3. 本時のための準備



#### 映像教材

総務省メディアリテラシー教材「うっきーちゃんのとれびふしぎたんけん」  
…アニメーションパート「アニメのふしぎ3」を視聴



#### テキスト教材

『お手がみ』アーノルド・ローベル 文・絵／三木 卓 訳  
…他の教材でも応用可



#### その他

##### (1) ペープサート

…登場人物（『お手がみ』ではかえるくん、  
がまくん）のペープサート見本

##### (2) 教科書の拡大提示

…指導者用デジタル教科書または拡大コピー機によって、教科書を拡大提示することで、児童がペープサートを持ったままスムーズにセリフを読むことができる。



## 4. 本時の流れ

### 本時の目標

#### 教科指導

『お手がみ』には、一度も手紙をもらったことがなく落胆するがまくんの様子と、がまくんを喜ばせるために手紙を書くかえるくんの優しさが対照的に描かれている。本時では、手紙を書いたことを黙っていられなくなったかえるくんの気持ちと、それを知って幸せになっていったがまくんの気持ちを想像しながら読むことを目標とする。

#### メディア

登場人物の様子や表現したい気持ちに合った声を作られていることに気づき、それを意識しながらペープサートを使ってかえるくんとがまくんを演じるようとする。

1. 前時を振り返る (2分)

2. 本時の学習範囲を音読する (3分)

3. 語句や文から登場人物の気持ちを思い浮かべる (5分)

…登場人物の気持ちや様子の分かる語句や文をさがす。  
その時の気持ちを想像し、時系列にまとめる

4. 映像教材「アニメのふしぎ3」を視聴する (5分)

…キャラクターに合った声を作られていることを知る

5. 登場人物にふさわしい声を考え、ペープサートで演じる (17分)

…演じる役の気持ちや人柄を考え、声で表現する

6. 感想を伝え合う (13分)

…音声表現によって気持ちや様子の伝わり方が違うことに気づく



授業の山場は  
8ページ

#### 教科指導

教科指導の観点

#### メディア

メディアリテラシー教育の観点

## 5. メディアリテラシー育成のためのポイント

### ポイント 「お手がみ」以外の教材でも！

今回は『お手がみ』という教材を使いましたが、ペープサートを使うタイプの授業であれば、他の教材でも応用できます。

### ポイント メディアリテラシーの入り口として

演じ手となることで情報の発信側を体験でき、聞き手となることで情報の受信者としての意識が芽生えます。「情報は発信側が作り、受信側はその情報を見極めなければいけない」ということがわかる、メディアリテラシー教育の入り口となります。

## 6. 授業レポート

### 1. 前時を振り返る（2分）

前回の授業で習った、かえるくんとがまくんのお話を思い出してください。ペープサートを使って演じてみて、どんなことがよかったかな。

「かえるくんとがまくんの違いがわかりやすくなった」「2人の気持ちが考えられる」

うまくいかないこともあったよね。

「教科書をめくるのが大変だった」「字が見えない」

— かえるくんとがまくんのセリフを大きな字でわかりやすくまとめた紙を提示。



今日は、これを見ながら演じてみましょう。

#### ● 指導教諭のポイントアドバイス

教科指導

登場人物のセリフを模造紙などに大きく抜き書きしたものを用意し、黒板やホワイトボードに提示すると、児童がペープサートを持ったままセリフを読むことができます。

### 2. 本時の学習範囲を音読する（3分）

— 「かえるくんとがまくんをもっと上手に演じよう」と板書。

今日は、かえるくんがお手紙を書いたことをがまくんに話したところから、最後の幸せになるところまでやってみたいと思います。

「やったー」と児童が喜ぶ。

では、教科書を読みましょう。終わったら隣の席の人と2人で相談して、かえるくん、がまくんのどちらの役をやるか決めてください。



— 教科書を音読。役を決める。

### 3. 語句や文から登場人物の気持ちを思い浮かべる (5分)

かえるくんの役の人はかえるくん、がまくんの役の人はがまくんの気持ちや様子がわかることを教科書から抜き出して、その時の気持ちを考えてみましょう。ノートにまとめたら、書き出した気持ちを声に出して表現してみてください。

— ノートを上下に分け、上段に教科書から抜き出した語句や文、下段にその時思い浮かべた気持ちを時系列に整理してまとめるように指示。

みんなの意見を聞いてみましょう。かえるくんの気持ちはどうかな？

「まだあせてない。冷静にしよう」「もう種あかしちゃえ」「いっしょに待とうよ、がまくん」「ニコニコ」「がまくん、よろこぶかな」「だんだんしあわせ」



— 児童の発言を板書。

今度はがまくん。

「あきらめている」「もう僕のところにお手紙は来ない」「そうだったんだ、かえるくんってやさしい」「ぼくって何やってたんだろう」「かえるくんにあんなこと言わなきゃよかった」「あきらめなくてよかった」「こんどおかえしするから」



— 児童の発言を板書。

かえるくんとがまくんの気持ちがたくさん出てきたね。

#### ● 指導教諭のポイントアドバイス

教科指導

- ・ ペーパーサートを使って声を出して考えさせてもよいでしょう。
- ・ 登場人物の様子や気持ちを書き出す作業は、前時に行っておくと、授業時間に余裕を持たせることができます。その場合、本時では前時の発言を紙にまとめて提示し、4以降の学習を進めましょう。



#### 4. 映像教材「アニメのふしぎ3」を視聴する（5分）

がまくんとかえるくんをもっと上手に演じるために、ビデオを見てみましょう。

— 映像教材「アニメのふしぎ3」を視聴。アニメ今の映像を見て、どんな感想を持ったかな。

「声によって女の子が大人に見えたり小学生に見えたりする」「がまくんとかえるくんの声を分けなくちゃいけない」「声によって、その人のことがわかる」

— 児童の発言を板書。

声で、その人物のどんなことがわかると思いますか。

「気持ち」「年齢」「性別」「性格」

— 児童の発言を板書。

そうだね。元気な子だとか、おとなしい子だとか、声の調子で伝わるね。



#### ●指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・アニメのキャラクターにはふさわしい声が付けられていることを確認し、ペーパーパートでかえるくん、がまくんを演じている子どもたちも、同じように声で表現する演技手であるということを認識させましょう。
- ・時間に余裕があれば、ビデオ視聴後、実際に声で年齢を表現させるとよいでしょう。演じる側が何歳の声を表現するかはふせて演じさせ、聞き手の感想を確認してから種あかしをする、という流れで行うと効果的です。

## 5. 登場人物にふさわしい声を考え、ペープサートで演じる (17分)

授業の山場!

これまで、声によって伝わるイメージが違うということを考えて演じてきたかな?

今日は、みんなが演じるがまくんとかえるくんは、どんな人物なのかを考えてみましょう。かえるくんは何歳だと思いますか。

「10代」「20歳」

こんな風に、がまくんやかえるくんの性格や年齢、気持ちなどを自分なりにイメージしてノートに書いてください。

### — 児童がノートに書き出す。

どんながまくんを演じますか。

「いじっぱりとあきらめがまざってる」「すぐあきらめる」「のんびりやさん」「かえるくんをほめるから優しい」

かえるくんは?

「明るくてあきらめない」「優しい」

では、ペアの人に「こういうかえるくんを演じるよ」「こんながまくんを演じるよ」と伝えましょう。そして、セリフを抜き書きした紙を見ながら演じてみてください。

### — 児童がペープサートを使って演じる。

できたら、4人のグループで見せあいっこしてみましょう。



### ● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・演じる前に、どんな気持ちを表すのか、どうしてそのような声がふさわしいと感じたのかななどを発言させ、板書を見ながら実際に声に出させると、登場人物に合った声への理解がより深まるでしょう。
- ・児童のイメージが膨らみにくいようであれば、教師がわざとふさわしくない声で演じ、発想を活性化させましょう。

教科指導

- ・前時の振り返りから入り、本時の3の学習と合わせて人物像を考えるように助言します。



## 6. 感想を伝え合う (13分)

今日はビデオを見てから、かえるくんとがまくんの性格まで考えて演じました。お友達がやっているのを見たり、自分がやってみて、どんな感想を持ちましたか。

「気持ちをよく考えられた」「2人の声と同じだと困るということがわかった」「性格を考えると気持ちもよくわかった」「相手の声で性格がわかった」

### 一 児童の発言を板書。

みんなも、演じる前に聞いた性格と、声から感じた性格は同じだと思いませんか。

「同じだった」「違った」と児童の意見が分かれる。

「違った」という意見の人は、なぜそう思ったのかな。「声に表れていないから」「暗い声だと元気に聞こえない」

声で性格をうまく表現できていないと、聞いている人は演技手のイメージとは違ったかえるくんを想像してしまうんだね。

では、前回より上手に演じられたと思う人。

### 一 「性格が考えられたから」「年齢などを頭に入れてやったから」と多くの児童が手を挙げる。

今日みんながやったように、人に何かを伝えるときには、伝える内容をしっかりと考えることが大事です。反対に、聞き手の人が気をつけなくてはいけないことはあるかな。

「相手が演じているときは考えながら聞く」

聞き手の人が考えたことは、演技手の人が考えたことと同じではないかもしれない。だから、「これは本当に演技手の人が考えたことなの？」と思いながら聞かなくてはいけないということだね。では、演じる側と聞く側の両方の感想をノートに書いて、授業を終わります。



### ● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

メディアリテラシーに話が広がらない場合は、「ビデオを見てから演じたことで、前回演じたときと違った点がありますか」といった補助発問を入れるとよいでしょう。

## ペープサートと映像教材を プラスして、より楽しく、 学習効果の高い授業に

**今** 日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

### ◆子どもらしく物語の世界を楽しんでいた

お話を文字で読むだけでなく、ペープサートを使って演じることで、物語の世界を楽しむという子どもらしさがより表に出ていたと思います。ビデオも興味を持って楽しく見ていましたね。

**授** 業で工夫されたことは何ですか。

### ◆ペープサートを活用して楽しく効果的に学ばせる

低学年では授業を楽しむことが大事ですし、役になりきるグッズがあると学習効果も変わってくるので、ペープサートを使って演じさせました。

### ◆情報の送り手側と受け手側の両方を体験させる

情報の送り手側と受け手側のどちらか一方しか体験していないと、双方の違いが感じ取れません。そのため、最初は2人、次に4人でグループワークを行い、聞く側と演じる側の両方をしっかりと体験させるようにしました。

### ◆紙に登場人物のセリフを書き出して提示

前時に子どもたちから「ペープサートを顔の前に掲げていると教科書のセリフが読みにくい」という意見が出たので、大きな紙にセリフを書き出し、それを見ながら演じられるように工夫しました。

**も** っと時間をかけて授業ができる場合、どんなことを実施すればよいですか。

### ◆ビデオを見たあとに、声で年齢を表現させる

ビデオを見たあと、登場人物のイメージをまとめさせる前に、「声で年齢を表現する」というテーマを与えて、一度演じさせてみるとよいでしょう。ビデオではアニメのキャラクターのセリフをいろいろな年齢の声で表現してしまから、テーマとしては年齢が一番わかりやすいと思います。演じる側が何歳の声で演じるかは秘密にしておいて、「何歳だと思った？」と聞き手の感想を確認してから種あかしをする、という流れで行うとよいですね。そうやって細かく段階を踏むことで、子どもたちが声で伝わるイメージの違いをより実感できると思います。



大塚健太郎 教諭

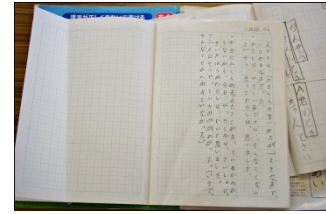
(東京学芸大学附属  
小金井小学校)



「」の授業を実施してよかったですか。よかった点について教えてください。

◆情報の受け手としての意識が芽生えた

よかった点は、子どもたちから「演じ手の意図したようには聞こえなかった」という受け手側の感想が出てきたことですね。情報の送り手側と受け手側の両方を体験することで、「情報を無批判に受け入れるのではなく、一度立ち止まって確認する」という受け手としての意識を芽生えさせることができたのではないかと思います。



## 8. 私もやってみました！

# 子どもの意識を集中させ 学習効果を高める 教材選びがポイント

- れまでメディアリテラシー教育に  
— どのようなイメージをお持ちでしたか？

### ◆授業の意図に沿った教材選びが求められる

教材や資料がたくさんあるのはよいことですが、反面、子どもの視点が広がりすぎてしまうという懸念もあります。子どもたちの意識を学ぶべきポイントに集中させるには、授業の意図に沿って教師がしっかり教材選びをしないと難しいな、という印象がありました。

## 授業を始める前に不安なことはありましたか？

### ◆ペープサートとアニメをどう結びつけるか

ペープサートとアニメは同一線上にあるものですが、子どもには全く別物に感じられると思っていたので、アニメのビデオを子どもたちが演じるペープサートにうまく結びつけられるかどうか、少し不安でした。ところが、子どもたちが自ら「かえるくんらしく、がまくんらしく読む」という課題につなげて考えてくれたので、嬉しい驚きを感じましたね。

## 今日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

### ◆集中して積極的に取り組んでいた

国語の学習や音読に苦手意識をもっている子がとても頑張って取り組んでいたように思います。もっと子どもたちの意識が散漫になるかと思いましたが、いい雰囲気です。セリフを読んでいる子も多かったですし、友達の発表も一生懸命聞いていたと思います。

- れからメディアリテラシー教育を始める先生方へ  
— メッセージをお願いします。

### ◆『お手がみ』をメディアリテラシー教育の入門教材に

メディアリテラシー教育の入門編として、『お手がみ』という教材はベストだと思います。メディアリテラシーについて教えることもペープサートを使った授業も初めてでしたが、私自身も子どもたちも、とても楽しく取り組むことができました。



大久保綾夏 教諭

(東京学芸大学附属  
小金井小学校)





小学校低学年であれば複数の国語教科書に掲載されている教材ですから、メディアリテラシー教育に興味を持たれたり、教材選びに悩んでおられる先生方におすすめしたいですね。

### ●ここを工夫しました！

1. 前時を振り返る (2分)
2. 本時の学習範囲を音読する (3分)
3. 語句や文から登場人物の気持ちを思い浮かべる (5分)
4. 映像教材「アニメのふしぎ3」を視聴する (5分)
5. 登場人物にふさわしい声を考え、ペープサートで演じる (17分)

…児童の創意工夫をうながして学習効果を高める  
グループで演じる際には、机をつなげて席について行うのではなく、子どもたちの好きな場所（移動は教室前の廊下まで）、好きなスタイルでやらせました。床に座ったり、箱やイスを台として使ったりと、演じるにあたって子どもたちなりに創意工夫をこらしていましたね。落ち着きがなくなるといふ心配もゼロではありませんが、自由にやらせることで子ども同士の顔が近づき、楽しく作業に取り組めますし、学習効果も上がることをこれまでの経験で知っていたので、今回の授業にも取り入れてみました。楽しい中にも集中した授業になったと思います。

6. 感想を伝え合う (13分)





### 「メディアリテラシーわかりかけ期」での本実践の意義

メディア

昭和女子大学 初等教育学科  
駒谷真美 准教授

本実践の対象は、児童期前期に属する小学校低学年です。メディアリテラシーの発達段階では、わかりかけ期（基礎的理解制約期）に該当します\*。主な特徴として、マジックウィンドウ（子どもの認知発達の過程で表出する現象。無意識に現実の世界にメディアの世界の体験を持ち込む。テレビで見たことを単純に、現実の世界で起きている在りのままの真実だと捉える）の視点を依然保持しており、理解の幅に制限が見られます。例えば、アニメの「空想」の世界とスポーツの「現実」の世界について区別でき、基本的な理解を示しますが、ドラマの「演技」の世界については「作られている」認識が薄いのです。CMの誇張表現を見抜けず、常に真実を伝えていると思っている場合もあります。CMの登場人物に関して空想と現実の区別がつきにくく、理由を説明するのが難しいのです。また、番組や登場人物に対する嗜好が明確になり、番組の脇役にも関心を示すものこの頃です。

これらの特徴を踏まえたメディアリテラシー教育の到達目標としては、「①情報を収集し、与えられた課題を達成するために、メディア作品を見聞き、読み解きができる ②物語を作るために絵や写真を順番に並べることができる ③アニメで描写された世界と現実の世界を区別できる ④簡単なメディア作品を作ることができる」が挙げられます\*\*、\*\*\*。本実践では、「うっきーちゃん のてれびふしぎたんけん」（アニメのふしぎ3）を活用し、単元『お手紙』の登場人物の心情を読み解き（①）、声の演じ分けを試み（③）、ペープサートで作品を発表した（②・④）ことで、わかりかけ期の児童のメディアリテラシーが伸長されると考えられます。

- \* 駒谷真美. (2012). 『わくわくメディア探検 子どものメディアリテラシー～メディアと楽しく上手につきあうコツ～』. 東京：同文書院.
- \*\* Ontario Media Literacy. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from <http://www.angelfire.com/ms/MediaLiteracy/>.
- \*\*\* Ontario Ministry of Education. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from <http://www.edu.gov.on.ca/eng/document/policy/achievement/charts1to12.pdf>.

## 声が人物像をつくりだしていることに気づく

教科指導

東京学芸大学 人文社会科学系  
日本語・日本文学研究講座 国語科教育学分野  
中村和弘 准教授

物語の授業では、登場人物の気持ちを想像して吹き出しに書いたり、会話の部分の気持ちを考えながら音読・朗読したりする活動をよく行います。

この活動が、メディアリテラシー教育の一つの入口にもなります。ポイントは、実はテレビのアニメーションでも、誰かが人物の声を吹き込んでいるということを理解することです。そして、その誰かの声が、登場人物の性格や気持ちを生き生きと視聴者に伝えるのに、大切な役割を果たしていることに気がつくことです。

国語の授業で、音読するときには、子どもたちがその誰かの仕事をするようになります。場面の様子や人物の気持ちを文脈から正しく読み取り豊かに想像し、工夫しながら音読をすることで、聞き手の人物に対する受け止め方は様々に変わってきます。声という表現が人物をつくりだしていることに、メディアと国語の授業の双方から気付かせる活動です。